

謎の鬼ノ城 城内調査大公開 Vol. VIII

平成21年9月7日(月)～13日(日) 岡山県古代吉備文化財センター

ようこそ! 鬼ノ城へ

岡山県古代吉備文化財センターでは、『甦る! 古代吉備の国～謎の鬼ノ城』調査事業を平成18(2006)年度から行っています。この城内の発掘調査の状況を知っていただき、岡山県が誇る歴史と文化を再発見していただくため、調査現場を公開いたします。

今回の調査

今回は、鍛冶工房(鉄の道具をつくる場所)のあとと考えられる場所を中心に、発掘調査を行っています。

鬼ノ城でつくっていた鉄の道具や武器が出てくるかもしれません。



うら坊三兄弟

鬼ノ城ってなに?

鬼ノ城は、吉備高原の南のはしにある、高さ約400mの鬼城山に、今から約1300年前につくられた城です。西暦663年、朝鮮半島の白村江において、日本と旧百済の連合軍は、唐・新羅の連合軍と戦い、負けてしまいます。その後、唐・新羅の連合軍が攻めてくることを心配した当時の朝廷は、百済からわたって来た人たちの指導のもと、西日本の各地に城をつくらせました。鬼ノ城は、そのような古代山城の一つと考えられています。

これまでの調査

調査年	調査主体	主な成果
昭和53(1978)年	鬼ノ城学術調査団	鬼ノ城で学術的な調査が初めて行われる。
平成6(1994)年～	総社市教育委員会	城門、水門、城壁、角楼、敷石などの様子が明らかになる。
平成11(1999)年	岡山県古代吉備文化財センター	高床倉庫などの建物や鍛冶工房のあとが明らかになる。
平成18(2006)年～	岡山県古代吉備文化財センター	大量の土器が出土したり、城の中心部で大形の建物の様子が明らかになる。

～鬼ノ城と温羅伝説～

むかしむかし、温羅と名乗る鬼神が古備の国に飛んできました。凶暴な性格の温羅は山に城を作って多くの悪事をはたらいていました。

温羅の噂は、たちまち新の朝廷まで伝わり吉備津彦命が奮をいって温羅に向かいました。

鎧や鎧に変身する温羅を相手に苦戦するが吉備津彦命も鎧や鎧に変身を変えて戦いました。

鎧に変身させた命は、鎧に変身させた温羅を踏みあげて、ついに温羅は吉備津彦命に降伏しました。

おしまい。

鬼ノ城のつくり



たかちゃん



北門 (復元)

四つの門の中では唯一、排水溝のある門です。



突出部

「屏風折れの石垣」ともいわれる、石垣を突き出させた部分です。



角楼 (復元)

城の背後を守るためにつくられたと考えられています。



西門と土塁 (復元)

西門は城門のなかでは最も大きなものでした。城壁の大部分は土で作られていました。



敷石

城壁が崩れるのを防ぐため、石がしかれていました。

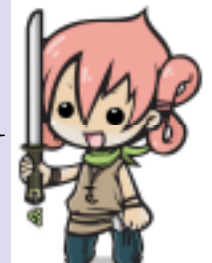


水門

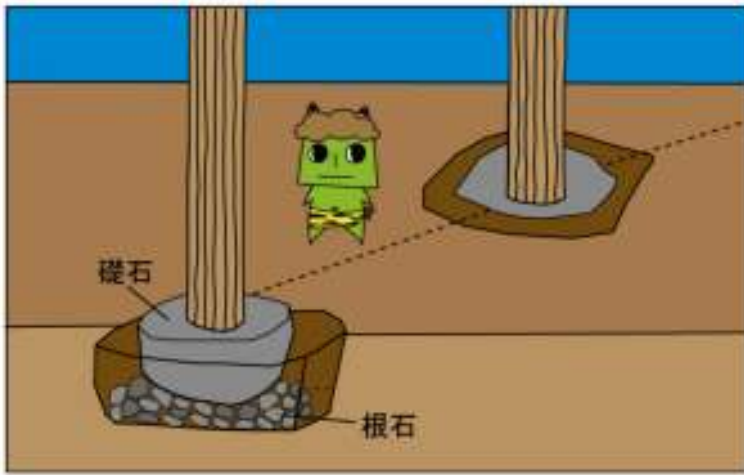
雨水で城壁がこわれないように、城外へ水を出すための施設です。



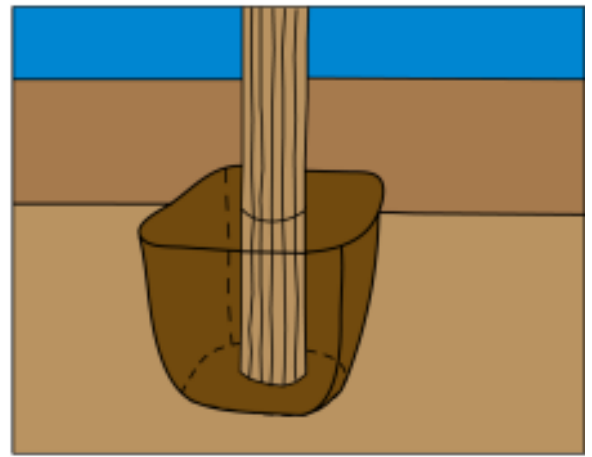
鬼ノ城は、4つの城門、6つの水門、土塁や石垣で作られた城壁、角楼、敷石、そして城内の倉庫と考えられる礎石建物群からなります。規模は、全周が約2.8キロメートル、面積が約30.6ヘクタール(桃太郎スタジアムが15個分)あります。



みこちゃん



そせき たてもの
礎石建物の柱



ほったてばしらたてもの
掘立柱建物の柱

城内の建物

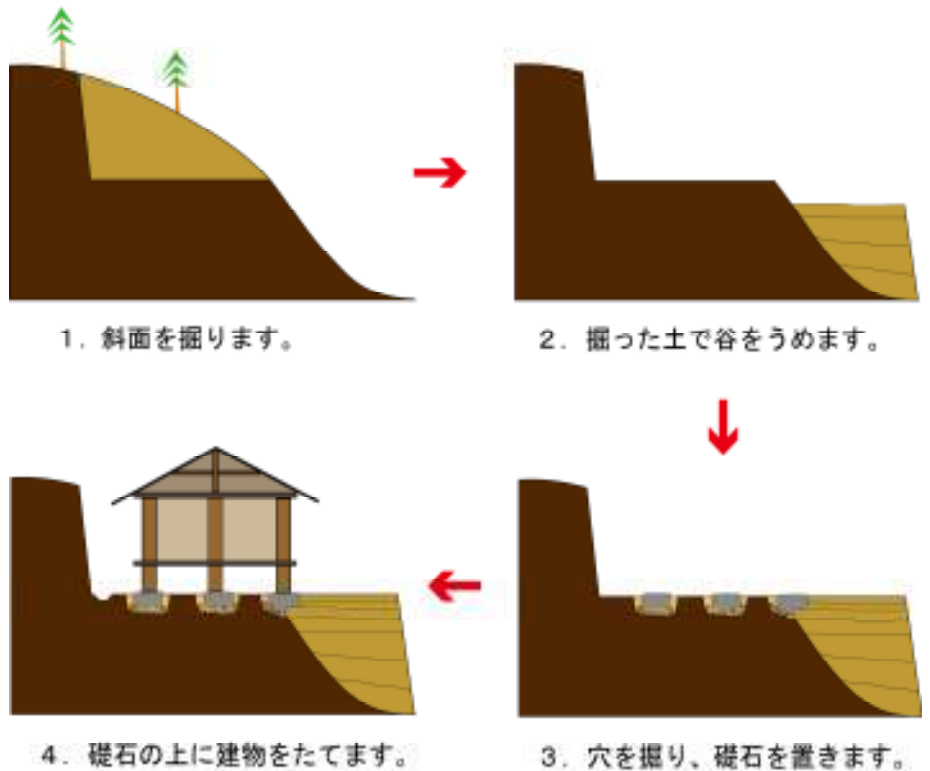
古代の建物は、柱のたて方の違いによって、掘立柱建物と礎石建物に分けられます。鬼ノ城でも、両方の建物が見つかっています。

鬼ノ城は山につくられた城で、斜面の多いところです。そのため建物をたてる時には、大規模な造成工事を行っていたことがわかりました。

建物は柱の配置によって、総柱建物と側柱建物にわけられます。総柱建物は、柱が建物の内側にもあり、重さに耐えられる建物で、倉庫に使われていたと考えられています。側柱建物は、建物の外側にだけ柱がある建物で、人が住んだり、仕事をしていたと考えられます。



キ ー ジ ー



城内での礎石建物のたて方

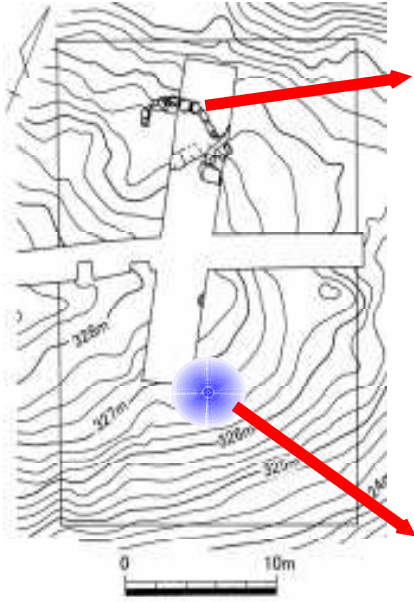
鬼ノ城の城内建物

建物名	調査区	規模 (間)	長さ (cm)	幅 (cm)	面積 (㎡)	柱の配置
礎石建物1	-	3×3	745	580	43	総柱
礎石建物2	A2-10区	3×3	525	500	26	総柱
礎石建物3	-	4×3	715	610	44	総柱
礎石建物4	-	4×3	767	660	51	総柱
礎石建物5	A2-9区	6×2	1785	650	116	側柱
礎石建物6	A2-2区	6×2	1760	650	114	側柱
礎石建物7	A2-5区	3×3	720	(540)	39	総柱
掘立柱建物1	A2-3区	3×2	770	470	36	側柱

調査速報！

今年度は、城内の東部で3か所の発掘調査を予定しています。現在調査を行っている場所は、東側に張り出した尾根上に位置します。これまでの調査で、大きな石を並べた石列や、鉄の道具を作る鍛冶作業に伴って出た鉄滓（不純物のかたまり）などが見つかっています。

また、縄文時代のサヌカイト製の石鏃（矢じり）や、黒曜石の小さなかけらなども出土しており、鬼ノ城よりもはるか昔、ここに足跡を印した人々がいたこともわかりました。



調査区全体図(1/500)

※7月に作成したもので、現在の状況とは異なります。



謎の石列

一抱えもある大きな石が、弧を描くように一列に並んでいます。石列の内側にはやわらかい土がたまっていました。今のところ、いつ何のために作られたものかは分かっていません。

鍛冶炉の跡？

調査区の一角から、鉄滓が集中して出土しました。

鉄滓は数mm～10cmほどの大きさです。その大きさと量からみて、ここでは鉄を鍛えて加工し、鉄製品（工具や武器など）を作っていたと考えられます。



マツグミ(宿り木の一種)



今回は、頭の上にも注目してね！

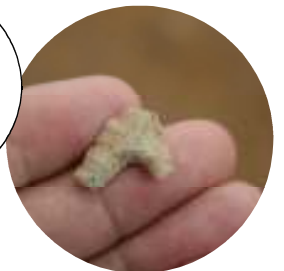


うらママ



うらパパ

わしらが一番乗りじゃなかったのか、残念だなあ



縄文時代の石鏃

〈お問い合わせ〉

岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

電話 086-293-3211 FAX 086-293-0142

ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

※ホームページでは、「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」のコーナーにて、城内調査のホットな情報をお伝えしています。ぜひご覧下さい。

この資料の無断引用・転載はご遠慮ください。



こいくん